

第102回 東葛しぜん観察会

森で不思議探検ツアー！

川瀬美幸（柏市）

日 時：2014年5月3日（土）9時30分～12時

場 所：おおたかの森（流山市）

参加者：41名（うち子ども16名）、指導員20名

担当指導員：川瀬 片岡 西池

当日は天候にも恵まれ、少し汗ばむくらいの陽気でした。集合場所のおおたかの森駅改札口から、電車遅延や流山市の駅前広場でのイベントが重なる、というハプニング等々を乗り越えて歩いていくと、次第に森に近づくにつれて駅前の喧騒がうそのように静かで穏やかな景色になってきます。駅からほんの数分なのに参加者の皆さんも変化に驚いた様子です。

実は流山おおたかの森駅周辺の街づくりは森を主役にしていて、景観上でのいろいろな規制があり森を予感させる街づくりをしている、ということを説明すると参加者も街の心地よさの理由があることを知り納得をしていました。

途中、これから鳥の楽園になるであろう市野谷調整池を隣接する公園の高台から見下ろし、池の横を通って森の入口に到着、再度班を確認して森の中に入りました。森の中は若葉の緑がきれいで木漏れ日がとても気持ちよく、落ち葉の地面の感覚を楽しんだり、森の匂いを感じてみたり、耳をすませて鳥の声を聞いたり、と、街中ではありませんが使うことがない五感をよく使ってみて感じてもらうように伝えました。最初は虫が見つけられなかった子どもも感覚が研ぎ澄まされると、虫もたくさん見つけることができました。

途中の下草を刈ってある広場では親子班と大人班の観察場を分けて、大人班には植物中心に、親子班には朽木にいる虫や落ち葉の下にいる虫などを見つけ観察しました。

その後、森の中の池を見て、野馬土手の部分やアリジゴクの巣などを観察。参加者に池の隣の残土の山や森の中に捨てられたままになっているゴミも見てもらい、人為的な事で森が荒らされていくことを知ってもらいました。里山利用されなくなった森では人々が入らなくなり、人間が森から遠ざかってしまった結果起こることなども、現在から昔にさかのぼった市野谷の森の航空写真を使い説明してみました。

最後に森のシンボルツリー、大檉（シラカシ）で樹木まわりと高さを計ってみる、という体験をしました。子ども三人分の身長から重なりあった腕の長さを引くと樹木まわりの寸法です。小学5年生の計算の早いこと！ 感心してしまいました。木の高さは用意していた樹木スケールで計ってもらい、一番多かった数字で決めました。きっちり正確な寸法を測るという点では物足りなさもありましたが、わいわい言いながら楽しくだったので、良かったです。参加者の感想では、森のことをもっと知りたくなった、など嬉しい感想が多く、それぞれの世代がその世代なりに森について何かを感じてもらえる観察会になったのかな、と思いました。



シンボルツリー大檉を測定